

# Through English Presentation

— 的確に理解し、適切に伝える能力を目指して —

英語科 船橋 郁美

「自分の意見を述べること」。これは今までにも言われてきたことであるが、これからの社会を生きていくために必要な要素の一つであることは間違いないだろう。「自分の意見を述べる」ためには、まず自分がその事柄に関して知識を有し、自分なりに思考を施し、自分なりの意見をまとめ、そしてそれをツールである「言葉」を通して相手に伝えることが必要となる。言葉を通して「伝える」。一見なんでもなさそうであるが、実はこれは訓練が必要なことであり、ましてや母国語以外の言語を用いて行うことはより困難を伴う。しかしながら、「伝える」能力は練習をすれば上達するものであり、生徒たちが社会に出る前に「伝える」難しさをどうしても体験してもらいたかった。そうしてこの授業が生まれたのである。幸いにも、これからの英語教育の指針と結びついていると考えられるので、生徒のアンケート結果を活かして次につなげていきたいと思っている。

キーワード：新学習指導要領 4技能の総合的育成 『相手に伝える』能力

## 1. はじめに

平成25年度より新学習指導要領が施行され、今までのコミュニケーション一辺倒から、英語における4技能(speaking, listening, reading, writing)の総合的育成に重点が置かれることになる。その中の外国語科の目標では「外国語を通じて、コミュニケーション能力を養うこと」とあり、現行の指導要領での「表現すること」だけではなく、「表現して相手に伝えること」にまで言及してある。

それを意識していたわけではないが、昨年度行ったプレゼンテーションの授業は、まさにこの新学習指導要領に準じた活動例と言えるのではないかと考えられるので、本稿で振り返ってみたい。

## 2. プレゼンテーション能力の要求

では、なぜプレゼンテーションなのか。それは一重にその需要の高まりに他ならない。今日の国際社会において、日本人が不得意だといわれてきた「意

見を述べる」を克服しなければ私たちが大きく活躍することはできない。本校の生徒たちの進学状況ならびにその後の就職状況を考えれば、必要不可欠な能力と言える。(幸運にも、本稿の対象である62回生たちは幸運にも『総合的な学習の時間』で1年次にかなり日本語でのプレゼンテーションを経験していた。)

自分の経験になるが、アメリカ留学中に *Public Speaking* という授業を取る機会があった。その授業では、「人前での話し方」「トピックの選び方」から「どうやって注目を集めるか」など様々な視点からプレゼンテーションの運び方を学び、タームの後半では毎週プレゼンテーションを行った。恥ずかしながら当時とともにパワーポイントを使ったこともなかった私は、かなり苦勞したこと覚えている。しかし、周りの友人たち(様々な国からの留学生たち)は、みな「自分の意見を述べる」ことに長けており、それぞれがとても説得力のあるプレゼンを繰り広げ

ていた。そんな中で自分の英語力のなさもさることながら、「相手に伝える能力」の未熟さに愕然としたものだった。そんな私でも回数を重ねるにしたがって徐々に慣れていき、最後には無事その授業で好成績を収めることができた。

つまり、「意見を述べる」「相手に伝える」能力というのは伸ばせるものであり、そこに必要なのは、①話す内容についての知識、②語学力、③プレゼンテーションのやり方についての知識とその経験、なのである。

そう考えた私は、これからの世の中に絶対必要な能力だから、教員になったら絶対プレゼンテーションを授業に取り組むんだ！と考えてきて、去年ついにその機会を作ることができた。

### 3. 62回生 1年次

本稿でとりあげる English Presentation は、62回生が2年次に行ったものである。その前段階としてよいかは分からないが、彼らがどうやって英語で伝える能力を鍛えていったかを見ることは必要だと思うので1年次の活動に触れておきたい。

それぞれの授業の構成はおおよそ次のようになっている。

#### I. リスニング

(JETとALTとの会話から情報を得る。会話内容は当日のトピックに合わせて用意しておく。)

#### II. 基本例文ならびに新出単語

(それぞれのトピックでよく使われる言い回しについて確認を行う。ALTの後に続いて復唱する。)

#### III. ペアワーク

(モデルワークは示されているが、時間内ずっと話し続けるには自分たちで内容を膨らます必要がある。ALTとJETは生徒間を回り、必要ならばいくらかの助言を行う。また、活動IVの発表に適したペアを探す。)

## IV. 発表

(時間が許せばできるだけ、ペアワークを他の生徒の前でもしてもらう。ボランティアを募って出てこなかった場合は、ペアワーク中に見つけておいたペアに頼む。)

(62回生 OCの授業 (週1))

Lesson 1 Nice to meet you.

Lesson 2 School life

Lesson 3 How do you spend your leisure time?

Lesson 4 What's wrong?

Lesson 5 May I help you? (restaurant)

Lesson 6 How can I get to the temple?

Lesson 7 This is Chris speaking

Lesson 8 Welcome to Chicago (flight)

Lesson 9 Why do Japanese do ...

Lesson 10 Express Yourself

Lesson 11 Express Yourself (2)

(Express your own opinions)

Lesson 12 This is American Life

Lesson 13 Different is Fun

(Difference and Similarity)

Lesson 14 We are Asian!

(What is Japanese-like?)

Lesson 15 Preparation for trip!

それぞれの時間では、生徒たちは楽しみながらも自主的に話を膨らませる努力をし、課題に取り組んでいった。発表をさせるのも大事ではあるが、時間が許す限りペアを変えて、違う切り口で会話を続けさせるようにした。また、学期の終わりには試験として簡単な会話テスト(2・3学期末は簡易プレゼンテーション)を行い、人前で話す練習を積んでいった。ただし、いずれのテストも聞き手はALTとJETのみとした。

(参照：簡易プレゼンテーション指導手順)

- ①プレゼンテーションのテーマ、実施方法の概要、評価方法・基準についての説明
- ②リスニング：教師によるデモンストレーション
- ③個人・グループ毎のテーマ発表
- ④ブレインストーミング：自らのテーマに関して思いつくことを書き出す。
- ⑤ペアワーク：それぞれのテーマについてペアになって話し合う。
- ⑥Attention-Getting Openerについての説明、原稿作成（終わらなければ宿題）。
- (⑦当日までに注意事項と発表順を掲示。)
- ⑧（発表当日）

Evaluation sheet 配布，プレゼンテーションの実施

- ⑨評価実施，用紙回収

#### 4. 62回生 2年次

2年次では、本格的に Informative speech（情報を伝えるためのスピーチ）に持っていきけるように、次のように時間設定をした。

##### (1) 1学期

1学期は1年次の総復習ならびに、スピーチの原稿を作成する能力（ライティング）を含む授業展開を考えた。基本的には以下のように授業を行った。

##### I. リスニング

##### II. 単語ならびに言い回しの確認

##### III. ペアワーク

(①～③については1年次のやり方に準ずる。)

##### IV. ライティング

(トピックに関する内容で、30～60字程度の作文を毎回宿題として課した。ただし、ペアワークをしっかりとやっていたらそれらを使って容易にできる内容にした。それぞれ次の時間に集め、添削をして返却した。)

(62回生 WAの授業(週1) 1学期)

Lesson 1 Let me introduce myself

(Writing : Introduce your friend.)

Lesson 2 Ring! Ring! Ring!

(Writing : Read a memo in Japanese, Summarize it, and write it down in English.)

Lesson 3 Perfect Place for a Get-Together

(Writing : Your Ideal Restaurant)

Lesson 4 I love Japan !

(Writing : Explain a Japanese thing.)

Lesson 5 Personal Experience

(Writing : Your best memory)

##### (2) 2学期

2学期は、いよいよプレゼンテーションを行う。まず前段階として2学期にどれだけの授業が確保できるのかを計算した。すると、祝日や新入大会等で授業が確保できず、全てのグループの発表を含めて7回の授業で行わなければいけないことが分かった。そのため、次のようにスケジュールを組んだ。

9月17日 第一回

グループ作り・トピック選び・情報収集

9月24日 第二回

情報収集・パワーポイント作り

10月1日 第三回

スピーチ原稿作り

10月15日 第四回

グループ内での個々人の発表

10月29日 第五回

プレゼン前の最後の仕上げ

11月5日 第六回

前半グループ発表

11月26日 第七回

後半グループ発表

## I. 第一回の授業

1 クラス42人の学級だったので、4～5人のグループを10班作った。授業の流れは概ね次のようになる。

①プレゼンテーション、ならびに2学期のスケジュールの確認。

(このプレゼンテーションの目標を、“to state ideas simply, clearly, and interestingly (簡潔に、明確に、そしておもしろく伝えよう)”とし、授業を通して「相手に伝える」ことに重きを置いていることを伝えた。)

②リスニング

(ALTとJETそれぞれがある事柄に関して3分間のプレゼンテーションを行い、その内容に関して質問に答えさせた。)

③グループ決め

(くじ引きでグループを決めたが、気を使ったのは「誰もくじを取り変えない」ことである。当たり前のことであるが、与えられた環境で自分の意見を言えることが大事であり、またその中で自分の得意とする分野を活かすことを期待した。)

④トピック決め

(グループで集め、それぞれの興味のある分野、得意な分野等について話させ、トピックを決めさせた。その際留意させたのは、そのトピックが『specific (特定な)』もの、つまりあまりにもgeneral (一般的) すぎるものではなく、『到達可能なもの』、つまり「ピアニストの養成方法」のようにほぼ実現不可能なものでもなく、そして『ただ一つの内容を持っているもの』、となっているかである。

⑤アウトライン作り

授業の最後にトピック・班員の名前・アウトラインを書いたプリントを提出させた。(授業内で終わらなかった班に関しては、次の授業までの宿題とした。)

## II. 第二回の授業

情報収集ならびにパワーポイントのための時間としたため、パソコンルームで授業を行った。この時間では前回のアウトラインのペーパーを基にIntroduction (導入), Main part ①～, Conclusion (結論) のそれぞれを具体的に埋めさせ、提出させた。

## III. 第三回の授業

前回の授業までで、グループ毎のアウトラインは完成しており、それぞれのメンバーがどの部分を担当するかが決まっている。そこで、この時間では、それぞれの原稿作りに専念させ、特に英語の言い回しなどをALTとJETが生徒間を周回することで質問できるようにした。やはり言いたいことはあるのだが、英語でどう言えばいいのか、ということに戸惑う生徒がたくさんいたが、先生を使ったり、グループメンバー内で確認しあったりと、かなり濃い内容にまで高めている生徒たちがいたのが印象的であった。

それぞれの原稿に関しては、次の授業までに完成させておくこととした。

## IV. 第四回の授業

情報を伝える際に一番難しいのは、その情報を全くもっていない相手にその情報を伝えること、であると思う。そのため、まず生徒たちには自分のグループ内で自分の原稿を読み、グループのメンバーたちが理解してくれるかどうかを確かめさせた。それがグループ内でのミニプレゼンテーションである。グループのメンバーは少なくともプレゼンターがこれからどういうことを言うのかのアウトライン

に関しては分かっている。そのため、メンバーに伝わらないということは、誰にも伝わらないということだ、ということを生徒たちに認識させ、いかに『相手に伝える』か、について意識させた。

また、生徒たちにはそれぞれの持ち時間がおよそ2分であることを伝え（4人グループなら持ち時間8分、5人グループなら10分と設定）、短すぎても長すぎてもいけないことを周知させた。

効果的に『相手に伝える』ために必要な要素については第一回の授業でも触れたが（言葉での説明ならびにALTとJETによるプレゼンテーション）、この時間でもそれらを意識することにも留意させた。すなわち、Speak Loudly（大きな声で）、Speak Clearly（はっきりと）、Use Eye-Contact（アイコンタクトを使って）、そしてもちろんこの授業の目標“to state ideas simply, clearly, and interestingly”である。

この授業内で、グループのアウトラインの修正にかかったり、原稿の手直しをする姿が見られた。

## V. 第五回の授業

プレゼンの前の予備としてとった時間であったが、この時間内では、まず評価される点について確認した。評価項目は、attitude（態度・声の大きさ）・content（内容）・preparation（準備（fluency流暢さ））・visual aids（パワーポイント等）の4項目とし、全員必ず2分前後話すこととし、グループとして評価されることを伝えた。

残りの時間では、生徒たちは最後の仕上げにかかっていた。

## VI. 発表（第六・七回の授業）

くじ引きで全グループを二つに分け、前半（六回目の授業）と後半（七回目の授業）とし、発表をさせた。

準備としては、前日までに全グループにプレゼン

テーション用のパワーポイントを提出させた。Evaluation Sheetを作成し、生徒たちに他のグループだけではなく、自分たちのグループも発表の後に評価させた。項目は前回確認した通り attitude, content, preparation, visual aids であり、それぞれを4段階（A:Excellent, B:Good, C:Acceptable, D:Not good）で評価させ、それぞれの評価の下にコメントを書かせることとした。コメントは全て英語で書くこととし、1 word 以上で書くように指導した。また、授業前には黒板に Evaluation Sheet の書き方（模範例）と、気をつけるべき点として Speak Loudly, Speak Clearly, Use Eye-Contact という3語を板書した。

グループ毎の持ち時間8分～10分で、5グループ行ったため、50分の授業でかなりぎりぎりだったが、生徒たちに先に説明を行い、グループ間の準備を一分としたため、少しオーバーすることもあったが、無事に発表を行うことができた。

どれも素晴らしい発表であったが、以下に2つのグループがどのようにプレゼンテーションを構成し、何を話したかのアウトラインを載せておく。

### グループA

タイトル：THE HYAKUNIN-ISSHU

導入：百人一首の歴史

・ Who made it and when?

（誰が編集し、いつの時代のものか。）

・ What is TANKA?（短歌とは。）

内容：一番好きな短歌を英語で紹介する。

①めぐりあひて みしやそれとも わかぬ

まに くもかくれにし よはの月かな

②忍ぶれど 色に出にけり わが恋は

物や思ふと 人の間ふまで

③恋すてふ わが名はまだき たちにけり

人知れずこそ 思ひそめしか

④わたの原 こぎ出でてみれば 久方の  
雲るにまがふ 沖つ白波

⑤これやこの 行くも帰るも 別れては  
知るも知らぬも 逢ふ坂の関  
(それぞれを英語に翻訳するだけでなく、  
時には歌人に焦点を当ててみたり、比喩表  
現について英語で説明してみたり、それぞ  
れが思い思い、なぜその短歌が自分にとっ  
て一番かを説明した。)

まとめ：百人一首に使われている技法と、それ  
によっていかに短歌が人を惹きつける  
かについて語った。

#### グループB

タイトル：The history of Nikujaga

導入：おふくろの味って？

(聞き手に対して質問を投げかける。)

内容：肉じゃがの歴史について

(このグループの面白いところは、どうや  
ら肉じゃがは大日本帝国軍が戦時中ビーフ  
シチューを日本風に作ったところできあ  
がったらしいのだが、それぞれがコックと  
軍人になりきって、その出来上がったとき  
の様子を劇で発表したところである。その  
劇の中には肉じゃがの作り方についても触  
れてあった。)

まとめ：肉じゃががいかに栄養的にすぐれて  
いるかを述べ、家で作ってみてはどう  
か、と聞き手に促した。(How about  
questionでプレゼンを終えた。)

#### 5. 生徒の反応

全てのプレゼンテーションが終わった12月の最初  
に、グループで座っている生徒たちに Evaluation  
Paperをグループ毎にまとめたものを見せて、自分  
たちのプレゼンがどうであったか、聞き手がどのよ  
うに感じたかを確認させた。そして次のアンケート  
を行った。以下にその結果から分かることをまとめ  
ておく。(アンケートに答えた生徒数122人)

(A) 私は自分のグループのプレゼンテーションに  
しっかりと参加した。

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. とてもそう思う   | 40人 |
| 2. そう思う      | 54人 |
| 3. 普通        | 24人 |
| 4. あまりそう思わない | 3人  |
| 5. そう思わない    | 1人  |

(B) 1年生の時の総合の時間を活かすことができた。

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. とてもそう思う   | 18人 |
| 2. そう思う      | 47人 |
| 3. 普通        | 40人 |
| 4. あまりそう思わない | 14人 |
| 5. そう思わない    | 3人  |

そう思った理由はなんですか？

(1 or 2 を選んだ生徒たち)

- ・パワーポイントの使い方に慣れていた。パソコンの操作に慣れていた。(50人前後の生徒がこのことについて触れていた。以下の理由については数名。)
- ・みんなの前で話すことに少し慣れていた。
- ・発表のイメージがしやすかった。
- ・どうしたら聞き手が分かりやすいか少しは分かっている状態に取り組めた。
- ・情報をまとめる上で工夫ができた。
- ・1年の時の反省を踏まえてプレゼンができた。

(3～5を選んだ生徒たち)

- ・1年のときをあまり覚えていない。(これが大半を占めた。以下は数名。)
- ・1年の時の内容は対決だったが、このプレゼンは違うから。
- ・時間が総合より足りなかった。
- ・総合よりも情報のほうが使った。

(C) プレゼンテーションで次のことができた。

①Eye-Contact

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. とてもそう思う   | 10人 |
| 2. そう思う      | 19人 |
| 3. 普通        | 43人 |
| 4. あまりそう思わない | 35人 |
| 5. そう思わない    | 12人 |

②Speak Clearly

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. とてもそう思う   | 16人 |
| 2. そう思う      | 37人 |
| 3. 普通        | 51人 |
| 4. あまりそう思わない | 12人 |
| 5. そう思わない    | 3人  |

③Speak Loudly

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. とてもそう思う   | 21人 |
| 2. そう思う      | 51人 |
| 3. 普通        | 31人 |
| 4. あまりそう思わない | 14人 |
| 5. そう思わない    | 2人  |

(C) 無回答 3人)

以下(D)から(H)までは、記述式で答えさせたため同じような内容で書いている生徒に関してはひとくくりとしてまとめてある。また、1人で2つ以上述べている生徒たちもいた。

(D) 自分が特に頑張ったところとは？

- ・原稿 69人

ex) 聞いて分かりやすい英語で書くこと  
難しい単語をなるべく分かりやすく  
文法を正しく

- ・パワーポイント作り 30人
- ・話し方 18人

ex) 発音

アイコンタクト

ジェスチャー

感情をこめて

聞き手を意識した発表

- ・資料集め 8人
- ・時間内にしっかりと読むこと 1人
- ・準備 1人

(E) プレゼンテーションを行う上で一番難しかったところは？

- ・英語の文章作成 43人

ex) 英文作り

どうしたら分かりやすく伝わるか工夫

伝えたいことがあるのに英語にするとニュ

アンスが変わってしまうこと

分かりやすい英語を使うこと

- ・英語での発表 30人

ex) 伝わるようにきちんと発音すること

英文を読むこと

アイコンタクト (英語なので原稿を読むの

で精一杯)

- ・パワーポイント 8人

- ・時間の配分 8人

- ・話し方 6人

ex) 大きな声で

ゆっくりと

- ・話す内容に合わせてスライドを換えること

6人

- ・あがり症 4人

- ・協力作り 3人

- ・情報収集 3人
  - ・話の流れをもたせること 2人
  - ・プレゼンの構成と組み立て 1人
  - ・積極的に参加するモチベーションが作れなかったこと。(少し後悔している) 1人
- (F) 一番楽しかったところは？
- ・パワーポイント作り 47人
  - ・仲間と協力できたこと 13人  
(一人一人のスライドと原稿を合わせて一つの発表となったこと。)
  - ・新しい知識が増えたこと(新しい発見があったこと) 13人
  - ・原稿作り 6人
  - ・完成したのを見たとき 4人
  - ・テーマ決め 2人
  - ・英語を話すこと 2人
  - ・みんなの前の発表自体楽しかった 1人
  - ・くじで決定した班でよかった 1人
  - ・あまりしゃべらない人としゃべれた 1人
  - ・劇の構成 1人
  - ・ユーモアの取り入れ 1人
  - ・先生へのインタビュー 1人
  - ・読みの練習 1人
  - ・みんなの英語の発音を聞き、言いたいことをできるだけ聞き取ろうとしたこと 1人
  - ・いっぱいいっぱい楽しむどころではなかった 1人
  - ・特になし 18人
- (G) もっとこうすればよかったと思うところは？
- ・もっと練習をすればよかった(個人) 34人
  - ・もっと練習をすればよかった(全体で) 4人
  - ・もう少し話す量を増やせばよかった 14人
  - ・パワーポイントをもっと凝ればよかった 14人
- ・もっと準備をすればよかった 10人
  - ex) 事前の資料集め  
よりおもしろいトピック  
実際に取材に行く  
もっと早くから
  - ・もっと簡単な単語を使うべきだった 8人
  - ・もっとアイコンタクトをとればよかった 8人
  - ・もっとメンバーとの意思疎通をとればよかった 7人
  - ・もっと大きな声で発表すればよかった 6人
  - ・誰がパソコンを操作するかを事前に決めなかった/話す人とパソコンを操作する人は別々にすべきだった。 4人
  - ・もっと原稿を推敲すればよかった 1人
  - ・時間配分をもう少し考えるべきだった 1人
  - ・もっと積極的に参加すればよかった 1人
  - ・特になし 10人
- (H) 授業中にもっとこうしてほしいかと思うところは？
- ・もっと時間が欲しかった 21人
  - ・感想を書く時間を増やして欲しかった 2人
  - ・感想欄が書きにくかった 1人
  - ・グループの人数が多かった 1人
  - ・マイクを使ったほうが聞きやすかったと思う 1人
  - ・発表者と聞き手の距離が遠かった 1人
  - ・授業はよかった 1人
  - ・おおむね満足だった 1人
- 教員からの働きかけについて
- ・原稿の添削をして欲しかった 6人
  - ・テーマの方向性が決めてあったほうがよかった 3人
  - ・パワーポイントもしくはプレゼンテーションの見本が欲しかった。(特に外国の生徒がし



- ているもの) 2人
- ・先生の方からもっと働きかけがあったほうがよかった 1人
- ・授業中の説明が難しく (English), 何していいか分からない時があった 1人
- ・日本語の説明が欲しかった 1人
- ・先生が二人いたので, 質問したいことがあるとすぐ聞いてよかった, 1人
- ・それぞれのグループの日本語の訳と原稿を配って欲しかった。 1人

●グループ決めについて

- ・同じような興味を持っている人で集まる形式のほうがよかった 2人
- ・クジで男女一緒にしないでほしかった 1人
- ・クジで決めた班でよかった 1人
- ・特になし 68人

(I) 機会があったらまた英語でのプレゼンをやってみたいと思う。

- 1. とてもそう思う 11人
- 2. そう思う 31人
- 3. 普通 43人
- 4. あまりそう思わない 22人
- 5. そう思わない 15人

(J) 社会に出た際に, この英語でのプレゼンが訳にたつと思う。

- 1. とてもそう思う 21人
- 2. そう思う 57人
- 3. 普通 30人
- 4. あまりそう思わない 10人
- 5. そう思わない 4人

〈分析/所感〉

いつも思うことであるが, やはり私は私の (教員

としての) 見方でばかり物事を見てしまうのだな, ということが生徒のアンケートを見て思う。(だからアンケートを取るのだが…)

まず(B)について見てみたい。始めのほうで触れたが, 対象の62回生は, 1年次にプレゼンテーションを総合の時間に経験している。そのため, 彼らにとって発表という機会がどれくらい浸透しているかを見るために, また他教科とのつながりという面でこの質問を設けたのだが, 関係はPositiveと見てかまわないのではないだろうか。4または5と答えた生徒たちの中でも, もっと活かせたと思うから4/5と答えた生徒たちもいたところも興味深い。

(C)を見てみると, やはり一番不得意としているのはアイコンタクトをとることだと分かる。このことについては後で触れたい。

一番生徒たちが頑張り, また難しいと思ったのはやはり『母国語以外の言語 (この場合英語)』で伝えること, であることが(D)ならびに(E)から分かる。ただここから, 生徒たちが英語で伝えるのだから, 『英語らしく』しなければいけないと, 原稿を作る際だけでなく, 発表の際も考えていたことが見て取れる。これはとても嬉しい発見である。最近あまり練習しなくても聞くだけで英語が話せるようになる, という参考書等も出ているが, なるほど確かに日常会話なら旅行会話なら出来るようになるのかもしれない。しかし, これからを担っていく今の高校生に必要なのは, 『英語を使って適切に自分の言いたいことを伝える (SpeakingでもWritingでも) 能力』, ならびに『相手の言いたいことを的確に把握する能力』であることは間違いない。(このことは新学習指導要領の外国語科の目標に掲げられている。)その中で, 『相手に伝える』ことを目的としているこのプレゼンテーションの時間で, 生徒たちが伝えるためには「英語らしい発音」, 「適切な文法」, 「ジェスチャー」等が必要であるということをしっかりと認識し, それらに意図的に取り組んでいたことはやはりとても

意味のあることであったのではないかと思う。

「一番楽しかったこと」は、授業中の生徒の様子を見ていて分かっていたことだが、やはりパワーポイント作りがトップとなった。生徒たちの中には本当にパソコンが得意な子たちがいて、発表の際には、私には一体どうなってるのか分からない技法もたくさん見られた。

また、これは予期していなかったのだが、2番目に多かった答えが「友達と協力してできたこと」であったことだ。グループでの活動で是非身につけてほしいことの1つはこれであろう。パソコンに得意な子がパワーポイントを、話を考えるのが得意な子が原稿を、英語が得意な子が翻訳を…役割分担を行うのは決して悪いことではないと私は考えている。その中で全く働かない子がいる場合は別だが、社会に出てから、あらゆる分野で活躍することはかなり難しい。そんな中で大切になってくるのは、自分というものを把握し、自分の長所を活かすことであると思う。しかし、自分だけでは何事も完成しない。様々なものが合わさり、相互に調和・調整し合い、更なるレベルに上げられる。その中で他の長所を活かす人との協調があり、競争があり…そのことを生徒たちが少しでも感じてくれたことで、グループワークをさせた意味があったと考える。また、生徒たちが素直にそれを「楽しかったこと」と表記してくれたことも嬉しい。

(G)に関しては、(C)ならびに(E)との比較で考えていきたい。生徒の中にも関連させて答えている子たちもいたが、基本的にアイコンタクトの出来と準備環境、ならびに英語が難しいと答えた生徒と準備環境には関係にあることが見て取れる。

(C)でアイコンタクトが出来なかったと答えた生徒は往々にして準備不足(特に個人練習の不足)を訴えており、覚えていないからスクリプトとにらめっこになってしまい、顔をあげることができなかつた、つまりアイコンタクトどころではなかつたとな

がっている。また、その準備不足の一番の原因は「英語」での発表である、ということであろう。英語で書くことに時間が奪われてしまって練習まで行かなかった。英語で読むこと自体が難しくて、顔をあげるどころではなかつた。など、いろいろ述べてあった。やはり『効果的』な発表には、そのプレゼンターが聞き手に向かって話しているかはとても大事になってくる。授業中になるべくスクリプトを見ないように発表しなさい、とは言っていたのだが、暗記するほど覚えていた生徒はほんの一握りではなかつたかと思う。もちろん暗記まではしてなくても、明らかに練習を積んできたと分かる生徒たちもいた。

スクリプトを見てよむことが『効果的』なスピーチにつながらないもう一つの理由は『英語らしく』ならないことである。これは日本語でも同じである。文をじっと見ながら読むと、読み手から発せられる音は「言葉」ではなく「音声を伴う記号」である、と私は思う。そこには強弱もなく、感情もなく、ただ無機質な音流だけである。これでは聞き手に何も伝わらない、ましてやそれが『母国語以外の言語』であったならばなおさらであることは疑う余地がないだろう。

準備不足のもう一つの要因は、文字通り「時間」が足りなかつたことにある。このことは(反省)で述べたい。

(I)ならびに(J)に関しては、リサーチ側の(私の)意図を酌んでくれたのかな?と思うぐらい私自身が思っていたよりもよい数値が出ていたのでかなり驚いた。また、英語が苦手なのでもうやりたくはないが、将来役にたつのでは…と(I)と(J)とが正反対の番号をつけている生徒がちらほらいた。少なくとも、彼らにとってこの授業で学ぶことがあったから、そのような数値になったのだろう…と楽観的ではあるが、授業を行った側としては喜びたい。

## 〈反省点〉

アンケート項目の④を見ていただきたい。ここでまずお話ししておきたいのは、実はInformative Speech (情報を与える発表) は、Discussionへの布石と初めは考えていたことである。シラバスの作成時では、2学期にInformative SpeechとPersuasive Speech (相手を説得する発表) の2つを行い、3学期にDiscussionを行う予定であった。しかし、実状を把握し、時間的制限を考えると到底無理だ、という結論に至り、1学期の終わりにシラバス修正について生徒に周知し、2学期にInformative Speechを行ったのであるが、やはり『伝える』ことだけだと一辺倒となり、生徒も「情報」の時間のように対決のほうがよかった、と答える生徒たちもいて、生徒たちに達成感を与えたり、次につなげる、という点で弱かったのではないかと思う。(3学期には発表という形はとれなかったが、ペアと数種類の問題に対してディスカッションを行わせた。)

一番多い生徒の声として実質的に「時間」が足りなかったことをあげなければいけない。実際には2～3カ月間があったのだから十分だ、といえそうなのであるが、問題なのはその間に学園祭や修学旅行等で全くプレゼンテーションに携わらない期間が多くあった、ということが大きな要因であると思う。しかし、私(教員)側の危機感も足りなかった。もう少し、生徒たちに自覚を促し、なんらかの働きかけをするべきであった。スクリプト提出等はさせたのであるが、こちらの側も時間がなく、生徒がスクリプトを持っているということに安心し、添削に関しては、個人的に持ってきた生徒のみしか行わなかった。(また、授業以外の時間に質問に来た生徒は数えられるぐらいしかいなかった。)

これが「添削をしてほしかった」というところにつながるのであろう。しかし、JETが一人で全てのスクリプトの文法から何からチェックを入れるというのはかなりの労力と時間を必要とする。そのため

生徒たちにはALTとともに「少しぐらい文法が間違ってもかまわない。それよりも簡単な英語でしっかりとゆっくりと発表することで相手に伝える」というスタンスで行っていた。(そのため添削を行わなかったのであるが。)しかし、これは「英語らしく」の適切な文法とは相反する。ここがとても難しいところだと思う。

ここでこれに関するもう一つの問題が、「英語に直すのが大変だった」という生徒の言葉に隠れている。つまり、彼らは日本語のスクリプトを書いてからそれを英語にしていたのである。実はこれが文法的に正しくない英語を作りだし、また英語らしくない英語を作り出す一番大きな要因だと考えている。それぞれの言葉にはそれぞれの特徴があり、日本語と英語は特に違う言語だと思っていけないのではないかと思う。その日本語をそのまま英語に置き換えようとするのだから、英語らしくなくなるのは当たり前であるし、英語らしくない=伝わりにくい、という関係を作り出してしまふ。授業の間では、グループのアウトラインを作る際も、個人のスクリプトのアウトラインを作る際も、生徒には全て英語で(文でなくてもかまわない。メモのような形でかまわない。という形で)書かせたのであるが、1/3ぐらいの生徒がスクリプトを仕上げる授業の際に、日本語版のスクリプトを持っていた。

これらのことを考えて、次の学年の際には、「英語で考えること」というスタンスをもっと確立させ、無駄な文法間違いをさせないだけでなく、英語らしさを追求させたいと思う。また、授業中で質問が出てない時間等は、周りを回るだけでなく、自ら生徒たちのスクリプトを見せてもらい、何らかの助言をしようと思う。

もう一つ気になったのは、それぞれのグループの日本語のスクリプトが欲しかった、という生徒の意見である。これはよくよく考えればもっともなことである。できるだけ伝えるために、生徒たちは苦心

して簡単な英語を使うことを心がけていたし、難しい単語を使わなければいけないときは、パワーポイントで図や訳を載せることで補っていた。しかし聞いている生徒からしてみれば、授業中ずっと他の生徒たちの英語を聞いて感想を書かなければいけないわけで、またやはり英語が拙い、もしくは難しい用語を無理に使ってしまったため、私でも何が言いたいのか分かりにくいところが少なからずあった。ということは、生徒たちにとってはもっとであっただろう。このように要望を書いてきた生徒はきっと、誰よりも一生懸命聞いていた生徒ではないかと思う。頑張って聞いて、アウトラインは分かるのだが、細かい内容までいくと分かりにくいところがある…そんな時日本語のスク립トがあったら…。

次のことを踏まえて、日本語のスク립トを配りたくないが、簡単な要約を作らせ発表の際に配る…というのも大事ではないかと思った。(もしできるなら要約も日本語と英語版の両方でできたら理想である。)

また、マイクを使うというのは大きな声を出さなくなるのでは、という点であり賛同はできないのだが、声がどうしても小さい子がいるのは事実なので、聞き手の位置やそういった器具を使うということに気を回せなかったことも反省点である。

## 6. まとめ

『4技能の総合と統合』とは『4技能をバランスよく、また2つ以上の技能の有意的に結びつけること』であると考え、この62回生の授業は次のように考えられると思う。

まず1年次では、それぞれの時間内にリスニング、リーディング、スピーキングが含まれており、基礎的な文法を学んでいる途中である彼らにはあえてライティングを課さず(テスト等や、ペアワークでのメモとりを抜かしてであるが)、使用頻度の高い表現を繰り返し練習することによって、彼らの中に言

い回しとしての定着をはかっていると考えてもよいと思う。

2年次の1学期には4技能全てが(リーディングのウェイトは下がるが)含まれることになる。ライティングに関しては宿題という形になるが、授業で行った他の3技能で扱ったことを活かして取り組むものであるため、関連していると考えられるだろう。

2学期に関しては、一つ一つの授業では扱っている技能がそれぞれ違う。ALTならびにJETは基本的には英語での指示を行っているので、リスニングは行っていることになるが、それぞれライティングをメインに行っている時間、リーディングを行っている時間、スピーキングを行っている時間となっていることが分かる。しかしこれらも、最終的にプレゼンテーションという目標につながっているため、それぞれの技能がバランスよく配置されているともいえるのではないだろうか。

このように、必ず全ての時間に4つの技能全てが入っていないといけない、というわけでは決してないと私は考えている。もしそうでなければ、私たちの労力は莫大なものになるだろう。そうではなく、それぞれの活動に意味を持たせ、またそれぞれの活動(少なくとも1つの技能を伴う)を相互に関連させることを目指せばよいのではないだろうか。そしてこれはどの教員の方々も今までにしてきたこと、もしくは少し手を加えればそうなることであると私は思うし、TTの授業だけでなく、英語I(コミュニケーション英語I)等の他の科目に関しても言えるはずである。

まだまだ未完成で、改善の余地は多々あるが、このプレゼンテーションの形だけでなく、その他の方法で、またその他の科目で生徒がバランスよく学べる授業をこれからもっと展開していきたいと思う。

Lesson 4 What's wrong?

It is important to know how to tell your conditions to someone. Unexpected incidents such as sickness, injuries, accidents and mistakes sometimes occur in daily life. Can you tell how you feel to your doctor in English?

Useful Words and Phrases

- Useful Words and Phrases
- What's wrong?
    - What's wrong? (What's the matter?)
    - Are you OK (all right)?
    - How are you feeling?
    - What happens?
    - I have a headache (headache: しんぱん)
    - I have a cold (I caught a cold)
    - I feel sick (unwell, terrible)
    - I feel dizzy (fervent)
    - I have a funny taste in my throat, no appetite
    - You look pale (terrible)

Useful Sentences

- What's wrong (with ~)?
- What's the matter (with you)?
- Is anything wrong?
- Are you OK?
- What's bothering (troubling) you?
- What's up?
- You look down (depressed, terrible)
- I got a bad mark on my exam
- I just broke up with my bf/gf
- My mum and I had a quarrel this morning

Useful Phrases

- Why don't you ~?
- Why don't you take some rest?
- I think you should ~
- I think you should see a doctor
- I think it is a good idea to ~
  - go to (see a doctor, the nurse's office)
  - take a medicine (a rest)
- How about ~?
  - How about calling him and talking about it?
- Take it easy!
- It's no big deal!
- Keep your chin up!
- Don't fret!
- It's not worth worrying about
- Do you want to talk about it?
- Is there anything I can do?

《 Listening 》

- ① A: Hey, are you (all right)?  
 B: Oh, hi Jim. No, I don't think so. I think I (caught a cold).  
 A: (That's too bad). Do you have a fever?  
 B: I don't know, but feel kinda feverish, and have a (headache).  
 A: Yeah, (looks like) you have a cold. Why don't you go to the nurse's office and take some rest.  
 B: Yes. Could you tell Mr. Yokono about my absence for me?  
 A: Sure. (Take care).  
 B: Thank you.

- ② A: You are so (quiet) today. (What's the matter)?  
 B: No, everything is fine.  
 A: Come on! You don't look OK.

B: Well, I (did a terrible mistake) on my exam. I thought I did well, but the score was terrible.

A: Oh, (take it easy). It doesn't mean you can't get the credit.

B: That's true. But still...

A: Hey!! (Forget it). We are going Karaoke. Why don't you join us?

《 Pair Work 》

Now, let's do the pair work. Your partner and you are classmates.

Since 1: One day, your partner looks terrible. Let's ask him and give him some advice.  
 Your partner's symptom:

Your advice:

Since 2: It seems like you partner worries about something. Ask him and give him some advice.  
 What's his/her problem?

Your advice:

Your advice:



WA-⑥

Speaking to Inform

In this semester, all of you are going to have a presentation with your friends. The schedule will be like this:

- September 17<sup>th</sup> First class
- September 24<sup>th</sup> Make groups, choose topic, research
- October 1<sup>st</sup> Gather information, Prepare Visual Aids (Power point etc.)
- October 8<sup>th</sup> Organize the Speech
- October 15<sup>th</sup> Mid-term exam (no class)
- October 22<sup>nd</sup> Have a mini-presentation within your group
- October 29<sup>th</sup> Sports Day (no class)
- November 5<sup>th</sup> Final class before your presentation
- November 12<sup>th</sup> First Presentation Day ( 5 groups )
- November 19<sup>th</sup> Sports Competition Day ( no class, different class schedule )
- November 26<sup>th</sup> School Trip (no class)
- November 26<sup>th</sup> Second Presentation Day ( 5 groups )

You can choose any topic as long as your presentation tells us something. Any speech is an informative speech if it presents information to an audience. The goal in giving an informative speech is to state ideas simply, clearly, and interestingly.

Ideal Topics...

- ① Something that you know a lot about or that really interests you
- Ex ) Let's listen to Jim's speech...

The topic is \_\_\_\_\_  
What did you learn about the topic? \_\_\_\_\_

- ② Something which you have special skills or work experience
- Ex) Let's listen to Ikumi's speech...

The topic is \_\_\_\_\_  
What did you learn about the topic? \_\_\_\_\_

- ③ Something that you are knowledgeable about

If you have picked your topic, please make sure your topic is specific, and contains only one idea.

Work sheet ①  
Our group name is \_\_\_\_\_  
Member ① \_\_\_\_\_  
② \_\_\_\_\_  
③ \_\_\_\_\_  
④ \_\_\_\_\_  
⑤ \_\_\_\_\_

Our topic is \_\_\_\_\_

WA-⑤-3

Speaking to Inform

Outlining an Informative Speech

The informative speech should be outlined like this:

- Introduction ( Attention-getting opener and Preview )
- Body
- Conclusion ( Summary and Memorable concluding remarks )

What is "Attention-getting opener"?

- Ask your audience a series of rhetorical questions. ( rhetorical : 修辞的 )
- Tell a story.
- State a surprising fact.
- State a well-known quotation. ( quotation : 引用 )

What is "Preview"?

Please tell your audience what your group is going to talk about in the "BODY" part in your speech.

What is "Memorable concluding remarks"?

Every speech needs an ending that leaves the audience thinking about and remembering what was said. Like attention-getting openers, memorable concluding remarks can take the form of rhetorical questions, stories, surprising facts, or quotations.

Now let's get together with your group members, and start working on your speech.

You have to at least write down what you are going to talk about ( your own outline ) in this period, and hand it in to Ms. Furubashi. Please start writing your script as soon as you can.

THE HAKUJIN-SSHU					
Criteria	Attitude	Content	Preparation	Visual Aids	Total
C	A	A	A	A	A
o	nice!!	easy to understand	perfect	posters are	
m	their visit is very	wonderful		Preparation is	
m	good to hear.			very nice	nice
n					
t					

THE HAKUJIN-SSHU					
Criteria	Attitude	Content	Preparation	Visual Aids	Total
C	A	A	B	C	B
o	little	Nikyogyo is	Drama is	I want to	
m	eyecatch.	a typical example	very funny.	see more	
m		food in Japanese	but I don't like it	Nikyogyo's	
m	clearly voice		picture.	picture.	
n					
t					

生徒のEvaluation Sheetからの抜粋